

## 2019年3月期 3Q 決算に関する主な質問

2019年2月6日

セガサミーホールディングス株式会社

財務経理本部 IR部

### <2019年3月期 3Q 決算の主な質問>

#### 遊技機事業

Q：第4四半期のパチスロ販売台数が4万台の計画となっているが、これは3月発売予定の「パチスロ猛獣王 王者の咆哮」が含まれている数字か？

A：「パチスロ猛獣王 王者の咆哮」を含む販売台数となっている。

Q：パチスロ型式試験の適合率が低い要因と、今後の改善方法を伺いたい。  
また、これだけ適合率が低いと来期以降のタイトルへの影響もあるのではないか？

A：新しいゲーム性を各社が模索している状況で、当社も様々なスペックを試しているため、適合率が低くなっている。これは4号機から5号機への規則改正の時と同様で、規則の切り替え時期にはある程度やむを得ないことだと考えている。適合しやすいスペックやユーザーのニーズなどが掴めてくれば、適合率も徐々に上がってくるのではないかと考えている。

Q：2019年暦年でのパチンコ、パチスロ販売台数は、業界全体でどのくらいとみているのか？  
その中でセガサミーの来期の販売台数はどの程度になるとみているのか伺いたい。

A：市場全体の販売台数予測については精査中であることから、現時点では具体的な数字はお伝えできない。  
パチスロは6号機の市場の反応を見ながら、旧基準機の入替えをどの程度の期間で進められるかが鍵になってくると考えている。  
パチンコについては、今期は「ぱちんこ CR 真・北斗無双 第2章」が6万台を超える販売台数となっているが、今後も新規則・新内規に適應して多様な遊び方のタイトルを開発できれば、環境的には今期と同程度の台数は販売可能と考えている。今年はラグビーワールドカップやG20などの大型のイベントが複数あるので、遊技機の入替え自粛のスケジュールなどが見えてくれば、来期の販売計画に反映できる。

Q：パチンコホールの入替え自粛について、来期は春先に天皇陛下の譲位、6月にG20大阪開催、9月にラグビーワールドカップの開催などがあるが、この時期にはパチンコホールの新台の入替えを自粛するのか。

A：業界全体での自粛となるため、当社はコメントできないが、一番ポイントとなるのは9月のラグビーワールドカップと考えている。入替え自粛期間と旧基準機入替えのタイミングがどれだけ重複し、どれだけ入替えが進むのかがキーと考えている。

Q：パチスロ 6 号機の販売開始から 3 カ月強経ったが、なかなかヒットに至る台が少ない。セガサミーの機種もあまり稼働がよくないようだが、出玉率が抑制されている中で大きな傾斜をつけても、一方で通常時が面白くないなど、ユーザーのニーズにマッチした台が出ていない印象を持っている。6 号機が、ユーザーやホールに受け入れられていないとした場合、それは適合率が低いのが問題なのか、出玉率抑制が影響しているのかなど、6 号機の現状の課題について伺いたい。

A：難しい質問だが、ユーザーの出玉に対する期待値が旧基準機に寄ってしまう点は 4 号機から 5 号機の移行期と同様で変わっていないと思っている。「パチスロ蒼天の拳 朋友」は、6 号機の中でも高スバックを狙ったが、それにより遊び方に難しさがあったかもしれないという反省もある。そのため 6 号機の中でそのバランスがうまくマッチする機械を作っていくのが大事だと考えている。旧基準機と新基準機が両方設置されている中で、6 号機自体がというより、パチスロの全体市場が今後どうなるかが課題と考えており、今後は旧基準機が外れるタイミングで 4 号機から 5 号機の移行期に当社が出したような新しいゲーム性を提供できれば、既存のユーザーにも遊んでいただける環境になるのではないかと期待をしている。

## エンタテインメントコンテンツ事業

Q：決算説明資料 6P のエンタテインメントコンテンツ事業の組織再編について、コスト削減、開発費の縮小など、これによる業績に対する影響について伺いたい。  
また、新体制で開発されるゲームが売上に貢献してくる時間軸について、お伺いしたい。

A：2020 年までの中期計画の中で、デジタルゲーム分野を成長分野と位置付けて、数多くのタイトルをチャレンジとして投資を続けてきたが、この 2-3 年くらいでリリースしてきたタイトルが市場に十分受け入れられるものになっていないとともに、既存タイトルが減衰していることが、業績に大きく影響している。収益性を上げるために、効率を上げる必要があるため、組織再編をして、開発・運営規模の適正化を含め新機軸で改善を図っている。同時に、この組織の中で開発の遅延が大きな問題となっているため、セガゲームスの社長直轄で開発スケジュールを管理できる体制にした。開発・運営規模の適正化と開発スケジュール管理の強化を基軸にし、これがしっかり機能すれば数年くらいの時間軸で改善効果が出てくると思う。現在仕込んでいるタイトルも、ここから来期に向けてチャレンジをしていきたい。

## リゾート事業

Q：パラダイスシティの 1-2 フェーズもオープンして、施設の本格稼働が始まると思うが、固定費や売上など、今期、来期はどのような業績見通しとなりそうか。

A：まだ具体的な数字は出ていないが、施設への来場客数は日本人を中心に伸びており、3 月にはワンダーボックスを含むフェーズ 1-2 の追加施設もすべてオープンするので、そういった中で来場客数がさらに増え、2019 年にはパラダイスシティ単体での収益黒字化実現を目指している。

以上